

# 次世代の森林づくりに向けたヒノキ優良品種の選抜

林業研究部

## 1. 研究の背景

品質管理型林業においては、性質のばらつきが少ないさし木苗による造林が期待されるが、ヒノキの苗木生産方法は未だ実生苗が主流である。そこで本研究では、ヒノキのさし木発根特性の検証、及び成長、材質、雄花着花性等の特性が優れたヒノキ品種（クローン）の選抜を行った。

## 2. 研究成果の内容・普及のポイント

収量性・施業性に関わる形質的な特性（樹高、胸高直径、根元曲がり、幹曲がり、枝密度、枝径、枝長）及び材質特性、雄花着花性を調査し、各特性・クローンをグループ化した（表-1）。特に、近年は各特性の中でも、花粉症対策に直結する雄花着花性が注目されるが、本試験により雄花着花量が少ない7系統が明らかになった（表-1 E、F）。

各クローンにおける時期別の発根特性調査の結果、春ざしの発根率が最も成績が良く、約70%~100%という高い発根率を示した（表-2）。このことから、ヒノキのさし木適期は春であり、ヒノキのさし木苗の生産も可能だと思われる。

表-1 各特性グループ・クローン一覧

グループ名	特性	クローン名
A	肥大成長良好、雄花着花量多	県大分5号、県竹田7号
B	動的ヤング率大、肥大成長小	県筑紫5号、県阿蘇4号、県阿蘇7号、県北諸県1号、県始良4号
C	樹幹通直	県諫早3号、県大分4号、県大分5号、県竹田7号、県始良47号
D	上長成長良好	県諫早3号、県神崎1号、県阿蘇3号、県始良47号
E	雄花着花量少、枝太・枝長	県浮羽14号、県藤津8号、県阿蘇4号、県始良4号
F	雄花着花量少、枝太・枝長、上長成長不良	県山田2号、竹田8号、県日出4号

表-2 各クローンの時期別発根率

クローン名	夏ざし 発根率 (%)	秋ざし 発根率 (%)	春ざし 発根率 (%)	採穂地
県日出4号	0.0	53.3	100.0	県営採種園
県大分4号	16.7	100.0	100.0	
県大分5号	70.0	90.0	100.0	
県山田2号	10.0	74.2	93.3	
県竹田8号	3.3	30.0	83.3	天瀬試験地
県筑紫5号	3.3	96.7	73.3	
県藤津8号	0.0	40.0	90.0	
県阿蘇3号	16.7	93.3	100.0	
県阿蘇4号	40.0	69.0	100.0	
県阿蘇7号	13.3	100.0	100.0	
県始良4号	3.3	-	100.0	
県始良47号	-	30.0	53.3 <sup>*</sup>	
県竹田7号	3.3	20.0	90.0	当部場内
県浮羽14号	6.7	23.3	76.7	
県神崎1号	33.3	53.3	100.0	
県諫早3号	3.3	40.0	90.0	
県北諸県1号	10.0	50.0	100.0	

<sup>\*</sup>県始良47号については他のクローンに比べ発根率が低い、採穂条件（位置、陽当たり、枝性の穂木）が起因していると思われる。



図-1 春ざし発根状況例（上段：県大分5号、下段：県竹田7号）

ただし、本試験では雄花着花性のデータが2カ年分のみの検証となっているため、データの追加・検証が望ましい。加えて、各クローンのさし木苗を利用した、県内検定林の造成による検定が必要だと考える。また、発根特性について、今回の調査では発根までの育苗期間を長く要した。育苗期間の短縮のため、今後は発根に適した温度環境や発根促進剤等の処理、穂長などの条件を検討する必要がある。

## 3. 期待される効果

ヒノキ優良品種のさし木による普及

## 4. 担当機関連絡先

大分県農林水産研究指導センター林業研究部 森林チーム  
〒877-1363 大分県日田市大字有田字佐寺原35  
電話 0973-23-2146